

図書館だより

埼玉県立図書館

12号



利根の渡し

行く水は常に新しく、とどまると
ころをしない、利根の流れ。しかし
大河の利根といつても今は、二箇
所の渡船きり残っていない。往年の
帆かけ船のギイーというきしみも、
のどかな船頭の歌も今はきかれない。
つい数年前までは、曳船のロープで
肩ダコを自慢の老船頭、唯一の語部
もおつたのだが。

また花袋の「河ぞいの春」に出て
くる、「利根の青い青い水」ももう流
れていない。コリコリした利根の鯉
のあらいやうなぎも今は味わえない。
わずかに昔を偲ぶものとして、河畔
の草とヨシキリの声と、ザザツと足
を埋める砂の感触だけである。

おまけに油と騒音をまきちらすボ
ートが、わがもの顔に川面を走る。
この上はどうか、草いきれを運ぶそ
よ風と、草の葉ずれだけの静かな利
根にかえしてもらいたい。（Y）

20
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
130 1 2 3 4

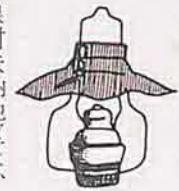
そのうちに、茶飲み話や、立ち話で終ってしまうのは残念だという声ができるようになり、意見交換のための雑記文集「心の友」ができました。



水島タキコ

読書グループ紹介

ともしひ読書会



私たちの住む神泉村矢納地区は、児玉郡の最西部にあたり、南は秩父郡、西、北は群馬県に接する上武自然公園の中にある純山村地域です。ここには下久保ダム、城峰公園などがあり風光明媚な所で、春は山菜、夏から秋にかけては、しいたけ、ぶどう狩りを楽しむ近郊の人々でにぎわいますが、時の流れには抗しきれず、過疎に悩んでいる地域です。こんな私たちに、夢と希望を運んでくれるのが、熊谷図書館の移動図書館です。單調な生活の私達にとって、それは唯一の文化の伝播者です。この移動図書館を利用している数人の仲間で始めたのが、仲良し読書会でした。しかし、折角の機会だから上手に利用してたくさんの本を読もうという程度で、二、三年が過ぎてしましました。

はじめての事なので、第一号には、意見、挨拶、「私の読書」等、さまざまな文章が盛り込まれましたが、皆申し合わせたように、山村にまで来て下さる図書館の人達に感謝するものが多かつたのです。

お互に心が通じ合うと、何でも話せるつきあいができるようになり、現在の「ともしひ読書会」と改名し貸出文庫を定期的に利用するようになりました。今では、月一回の定例会をもち、研修会も楽しく、十三名の会員の生きがいとなっています。

昭和五十二年五月より始めた私達の読書会も充実した時期を迎えて、今年も、読書についての研修以外の会をもち、研修会も楽しく、十三名の会員の生きがいとなっています。

利根川は昔、江戸からの唯一の文化の流通経路、鉄道の開通までは、さぞ栄えたであろうと思われる。千代田村の、河魚料理屋だったという廃屋にも、遊廓らしい面影をとどめ、この大利根は人の世の姿を呑んで、豊かに流れていた。花袋の好物だったという、うなぎの新田屋で、講師の弓削紗子先生のお話をきく。

「利根川と福川とに挟まれた、この水場に生れ育った吟子の生き方を、悲観的に考えることもないと思う。この水場こそ、彼女を恨強いものにしているのではないか。田山花袋は館林の生れだが、彼の心の故里は利根川であり、渡瀬川もある。なる」と語られた。

又、新田屋の裏、八幡社には、花袋の、いかにも利根川をしのばせる歌碑がある。それは、やさしく、

「用水にそひゆく朝の路寒し
かしこにここに梅は咲けども」

埼玉北部の、明るいがどこか愁をこめたものと、もし照庄するものが、あるとすれば、すさまじいまでの、内なる斗争も、時代という大きな流れに生き、死んでいった吟子であり、

と刻まれてあった。

私は、この又とない旅を、今も懐かしく思いかえしている。



花埋みの里と利根の渡し船

—埼玉県読売ブッククラブ文学散歩から—

前夜からの烈しい雨も、うそのようになれた五月七日、かねてから行ってみたい、と思つていた花埋みの里と、今も残る利根川の渡し船に乗れるという旅に、やっと恵まれた。やつとというのは、渡辺淳一氏の小説『花埋み』を読み、荻野吟子の生き方に、魅せられていたのである。それに、坂東太郎の流れを船で渡り、田山花袋のこよなく愛したという、赤岩宿、新田屋のうなぎが味わえるとあれば、私の心はいつかそこに飛んでおり、それがこのたび、ようやく思いがかなえられたのである。

当日、熊谷女子高校前より、参加会員約百名は、二台のバスに分乗、十分も走れば、そこには、寂とした竜渕寺の竹まいがあった。忍城主成田家代々の墓所のある由緒ある寺で、ここには、荻野吟子の最初の夫、稻村貫一郎氏の墓がある。更に、吟子の向学心に打たれて上京させ、自ら現れた南画の大師、奥原晴湖も力となつた南画の大師、奥原晴湖

十八才で結婚した吟子は、この井戸で水を汲み、畑を耕して三年間を過したことを想えば、彼女が生きていなくては、なぜか相応しくない里、といふ感じがしたのである。静かすぎ——強烈な彼女の個性が、埋没してしまった——と。竹敷の中、奥原晴湖の庵の跡も、しんとして、いま訪れるのは、雀ばかりではあるまい。

利根川の長い堤が見え始めると、そこは依瀬、吟子の生誕の地を記念する碑は、ひつそりと建っていた。

淋しい田舎町、妻沼に、聖天の大社はあつた。その広い境内の大きな杉樹に囲まれた社は、齊藤別当実盛の氏社だったという。昔はさぞ賑わって、五分もすると対岸の上州へ。この赤岩河岸から生れた、花袋の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行なっているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満喫できる。ふと、土手の草むらの中に、からすのえんどうの実を見つけた。私は、大はしゃぎで、実をちぎり、種を出し、草笛を作る。(子供の頃、しごびいと云つた)。シビビイビビー。誰もが幼い日を呼び返すように鳴らしている。感傷というには、この草笛の音に、色褪せた故里を、しきりに思ひかえすようであつた。吟子の魂がここにあるとすれば、屈折した年月の喜びや痛みを、この利根の流れに託しているのではなかろうか。

——おーい、船が出るぞお——。

よく整備された道路をバスは走る。突然に、現実へ引き戻される刻でもあつた。

淋しい田舎町、妻沼に、聖天の大社はあつた。その広い境内の大きな杉樹に囲まれた社は、齊藤別当実盛の氏社だったという。昔はさぞ賑わって、五分もすると対岸の上州へ。この赤岩河岸から生れた、花袋の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行なっているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満喫できる。ふと、土手の草むらの中に、からすのえんどうの実を見つけた。私は、大はしゃぎで、実をちぎり、種を出し、草笛を作る。(子供の頃、しごびいと云つた)。シビビイビビ

「喜びも悲しみも水とともにあるのがこの土地に生れついた者の宿命だ」という、吟子の母の言葉が想起される。ふと、土手の草むらの中に、からすのえんどうの実を見つけた。私は、大はしゃぎで、実をちぎり、種を出し、草笛を作る。(子供の頃、しごびいと云つた)。シビビイビビ

イー。誰もが幼い日を呼び返すよ

うに鳴らしている。感傷というには、

色褪せた故里を、しきりに思ひかえすようであつた。吟子の魂がここにあるとすれば、屈折した年月の喜びや痛みを、この利根の流れに託しているのではなかろうか。

——おーい、船が出るぞお——。

よく整備された道路をバスは走る。

突然に、現実へ引き戻される刻でもあつた。

淋しい田舎町、妻沼に、聖天の大

社はあつた。その広い境内の大きな

杉樹に囲まれた社は、齊藤別當実

盛の氏社だったという。昔はさぞ賑

わって、五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行

なっているのも、ここ葛和田の渡

しと、下流にひとつと、利根川で二

ヶ所のみときいた。今、この船頭さ

んは役場の公務員というのも面白い。

船頭の呼聲が聞えるような船着場、関東の中で、昔ながらの渡し船が運行されているのも、ここ葛和田の渡しと、下流にひとつと、利根川で二ヶ所のみときいた。今、この船頭さんは役場の公務員というのも面白い。

鶴のように並んで船に腰を下ろすと、今は勤労といつても、その気分は満

喫できる。五分もすると対岸の上州

へ。この赤岩河岸から生れた、花袋

の、『河ぞいの春』こそ、生涯を行



◎読書感想文の募集

■作品内容

読書をしたこと、あるいは本を読んであげたことによって、生活が豊かでうるおいのあるものになつたという経験など。

■応募資格

県内に居住する20才以上の方。

■応募方法

応募作品には、そのはじめに題名のみを記入し氏名は記入しないこと。なお、題名・住所・氏名・年令・職業及び読んだ本の書名・著者名・出版社名を別紙に記入し作品に添付すること。

■応募先

埼玉県立川越図書館読書感想文係(〒350-川越市新宿町一-17)締め切り

●くわしくは、同図書館へ(○四九一-二)八月三十一日(火)二一四四一五六〇三)

映画会 7月16日(金)12時15分「これから泳ぎを始める人に」「水泳の安全管理と応急処置」

「三匹荒野を行く」

映画のつどい 7月15日(木)・16日(金)

◎7月・8月の催しもの

■県立浦和図書館

県広報映画会

第二土曜映画会

「演をたらした神」

「さいたまの歌」「手と伝統をつく

る」「ふるさとの夏」

「1時半」「ふるさとを棄てたサギ」「自

然とどうぶつぱくらの友だち」「秩

父のほぐし捺染」

夏休みみ子供映画会

「半」「走れメロス」「はばたけ天平」

「8月5日(木)1時半」「とその子どもたち」「ごんぎつね」

「不思議な仲よし」

「日本1時半」「吉四六ばなし」

「春」「宇宙PARTI」「バナ」「葉っぱのゆりかご」

■県立熊谷図書館

映画会 7月16日(金)12時15分「これ

から泳ぎを始める人に」「水泳の安

全管理と応急処置」

「夏休みみ子供映画会」

「三匹荒野を行く」

映画のつどい 7月30日(金)1時半

「夏休みみ子供映画会」

「名画鑑賞会」

「夏休み子ども映画会」

「1時半」「二つのハーモニカ」

「これから泳ぎを始める人に」「水泳の安全管理と応急処置」

「水泳の安全知識と応急処置」

「これから泳ぎを始める人に」「水泳の安全管理と応急処置」

「三匹荒野を行く」

映画のつどい 7月15日(木)・16日(金)

埼玉の郷土の作家と作品



榎本了(東松山市在住)
「埼玉の文学碑」「武藏野にて」
風見潤(川越市在住)
「双子神の逆襲」「停滞空間」
北沢文武(本庄市在住)
「ある村人たちの抵抗」

西沢正太郎(入間市在住)
「ブリズム村誕生」
○作詞・詩歌
青木三郎 青木たかし 青木隆次
秋谷豊 泉かずお 池和彦
石川克己 大野芳男 栗田幸之助
小和瀬玉三 須沢玄詩 長島益江
中原綾子 並木六郎 町田寿衛男
野口家嗣 宮沢章二 毛利有紀雄

○童謡
千代田葛彌 出牛青朗 松本旭
堀部昭一 矢辺竹雄
大熊義和 竹内弥太郎 舟木貫一
武井直紀(浦和市在住)
「おでんばあっ子は一年生」
打木村治(飯能市在住)
「天の園六巻」「大地の園四巻」
荻日出夫(越谷市在住)
「よいこのくに」
柴田克子(川越市在住)
「目の中の父」「母からの流れ」
中野みち子(大宮市在住)
「アリババと40人の盗賊」

○俳句
常見千香夫 杜沢光一郎
浜梨花枝
秋元零折 岡安迷子 金子兜太
千代田葛彌 出牛青朗 松本旭
堀部昭一 矢辺竹雄
大熊義和 竹内弥太郎 舟木貫一
武井直紀(浦和市在住)
「おでんばあっ子は一年生」
打木村治(飯能市在住)
「天の園六巻」「大地の園四巻」
荻日出夫(越谷市在住)
「よいこのくに」
柴田克子(川越市在住)
「目の中の父」「母からの流れ」
中野みち子(大宮市在住)
「アリババと40人の盗賊」

○新着ファイルムの紹介
○ジャンバルジャン物語
○ヴィクトル・ユーゴー原作の「レ・ミゼラブル」に基づいて描かれた長編(東映動画小中以上一般)
○やまなみ映えて
○大きな南極大陸(一般教養)
○大いなる南極大陸(一般教養)

埼玉は、独特の文学的風土を作っています。
地理的には、内陸にあって、関東平野の穀倉地帯であり、利根川、荒川を始めとする河川、秩父の山岳地帯、関東ローム層の丘陵など、変化に富み、山紫水明の地です。
文化的には、渡来文化と江戸文化を吸收し、首都東京における文化を肌で直接吸収しているだけでなく、郷土の特色を、郷土作家みずから着手で作つてきました。
県内には、本県出身や県外出身の作家が、各地で活躍しています。また本県出身で県外在住の作家が、すなへん三代」「こんな差別が」された作品を書いています。
この身近かな郷土作家と作品について四回にわたりご紹介しますが、紙面の関係で代表作品にとどめます。これを手がかりに郷土作家への親しみが増せば幸いです。
郷土作家については、著作権台帳によるものです。

今回は、本県出身で県内在住の作家についてまとめてみました。

埼玉の郷土作家							
	文芸作家	劇作家	文芸評論	詩俳句	児童文学	など児童詩	計
本県出身で県内在住	9	0	1	27	9	5	51
県外出身で県内在住	49	9	5	50	21	4	138
本県出身で県外在住	10	2	2	17	10	3	44
計	68	11	8	94	40	12	233

注: 次号では県外出身で県内在住の文芸・劇作家・文芸評論家・詩歌・俳句・児童文学・詩の作家を、第三号では、本県出身で県外在住の文芸・劇作家・文芸評論家・詩歌・俳句・児童文学・児童詩などを登載します。

「先生のおとおりだい」
長沼依山(浦和市在住)
「ゆめのおさなご」



雪の女王

Father Christmas. (さむがりやのサンタ)
Raymond Briggs 作

H. Hamilton 社 イギリス
C1973. (浦・川・久)

Miffy. (ちいさいうさこちゃん)
Dick Bruna 作
Methuen 社 イギリス
1974. (浦・熊・川・久)

The story of Babar. (ぞうのババール)
Jean de Brunhoff 作
Books for Children 社 イギリス 1978. (浦・熊・川・久)

Randolph Caldecott's
John Gilpin and other stories.
Randolph Caldecott 作
Frederick Warne 社 イギリス 1977. (川・久)

Veronica. (かばのベロニカ)
Roger Duvoisin 作
Bodley Head 社 イギリス 1975. (浦・川)

In the forest. (もりのなか)
Marie Hall Ets 作
Viking Press 社 アメリカ合衆国 1972. (浦・川・久)

A birthday for Frances. (フランスの誕生日)
Lillian Hoban 絵 Russell Hoban 作
Harper&Row 社 アメリカ合衆国 1968. (浦・川・久)

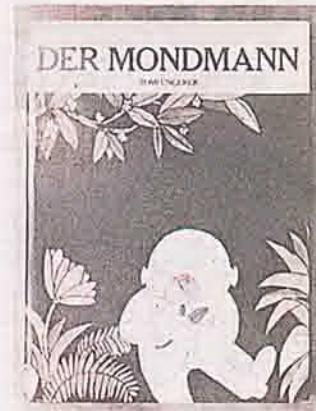
本のひろば - 外国絵本 -

現在、日本ではたくさんの絵本が出版されています。その中には、外国の絵本を翻訳したものも少なくありません。しかし、いざ出版されたものを手にとって見ると、形や大きさや色合いなどがそのまま表本されているとはいません。また日本で出版されていない外国絵本も数多くあります。

ここでは、県立図書館に所蔵する外国絵本の中から、21冊紹介します。外国絵本そのものの絵や色合いなどごらんになり、絵本が生き生きと語りかける世界を味わって下さい。

記載の内容は、以下の順になっています。

書名 (訳書名: 日本で出版されている場合)
絵者 作者
出版社 出版地 出版年
(所蔵館名)



つきおとこ

Millions of cats. (ひやくまんびきのねこ)
Wanda Ga'g 作

Faber 社 イギリス 1974. (浦・川・久)

Marigold garden. (マリーゴールドガーデン)
Kate Greenaway 作

Frederick Warne 社 イギリス [1885]. (浦・川)

The sleeping beauty.

(ねむりひめ)
Felix Hoffmann 絵
Brothers Grimm 作
Peter Collier 訳
Oxford Univ. 社 イギリス 1967. (浦・川・久)

The snow queen. (雪の女王)
Errol le Cain 絵 Hans Christian Andersen 作

Kestrel 社 イギリス 1979. (浦・熊・川)

Little blue and little Yellow. (あおくんときい

ろちゃん)
Leo Lionni 作
Hodder and Stoughton 社 イギリス 1980. (浦・熊・川)

Frog and toad together. (ふたりはいっしょ)

Arnold Lobel 作
Harper&Row 社 アメリカ合衆国 1972. (浦・川)

町民の待望久しかった図書館が今春三月末竣工いたしました。旧図書館は幸手小学校の創立六十周年記念事業として校庭の一角に、独立館として建設されたのが昭和八年であり、半世紀にわたって文化センター的使命を背負ってきたわけですが、蔵書を収めるスペースも狭くなり、風雪に耐えた木造建築としても限度にきておりました。この度、町当局の英断と、国、県の協力により床面積にして約六倍、文化、教育施設として自慢のできる図書館が誕生したわけです。

○建物 鉄筋コンクリート二階建、延床面積一、四〇〇平方メートル
○一階 コントロールカウンター、相談コーナー、一般開架、児童コーナー、おはなし室、新聞、雑誌コーナー、文庫新書コーナー、閉架書庫、機械室、事務室、椅子用トイレ
○二階 視聴覚ホール、同準備室、



所在地 幸手町緑台2-5-25 TEL 04804-2-0169

花園村は文字通り、花の園でありまして、一年を通して花の香りがただよう所で、緑と荒川の清流、そして澄んだ空気が一杯の、人口一万余の純農村地帯です。この花園村に読書クラブが誕生いたしましたのは、昭和四十七年ですから、早いもので、今年で三十年になります。発足の動機は、四十六年に開設しました、小学校一年生の父兄を対象とした家庭教育学級にありました。大変楽しく、有意義に過ごしました家庭学級の閉級式後の反省会で、「このまま解散してはなんとも残念だ。一つのクラブを作りたい。」と言う父兄の強い要望で生まれたのです。私達の読書クラブは、現在十三名の会員で構成されております。月一度の活動ですが、良き指導者を得て、この十年間子供達に負けないよう、着実に一步一步進んで参りました。

例会では、前回会員に配本された

本の内容と、それに対する自分の感想を述べたり、また、自分の環境と

私達の読書クラブは、現在十三名の会員で構成されております。月一度の活動ですが、良き指導者を得て、この十年間子供達に負けないよう、

着実に一步一步進んで参りました。

例会では、前回会員に配本された本の内容と、それに対する自分の感想を述べたり、また、自分の環境と

県内図書館めぐり

幸手町立図書館

視聴覚ライブラリー、参考資料室、郷土資料室、会議室、学習室(三十席)、展示コーナー、ロビー、接室兼館長室

○休館日 每月曜日、第一日曜日、国民の祝日、年末年始、特別整理日
○開館時間 九時～十六時三〇分
○特色

読書グループ紹介

読書クラブ

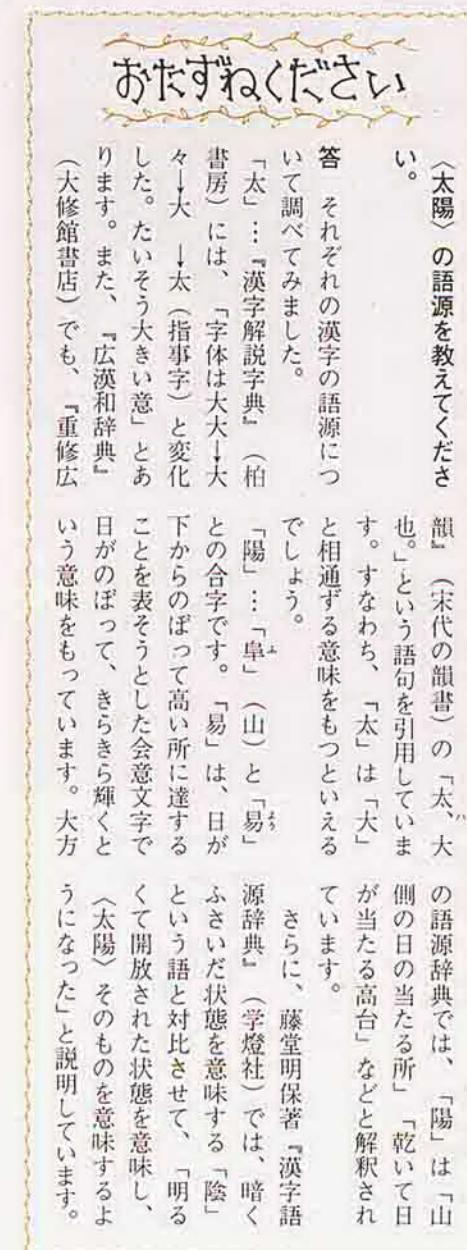


対比したり、時には、作品と作者の関係、作者の生涯を巡って話し合をしております。それに、作品の舞臺となつた場所の映画等も上映して行なわれる、年に一度の文学散歩は、会員の楽しみにしている行事のひとつです。

とかく、成果という面を考えた場合、形では現われない会ですが、図書の入れ替え、目録、貸出しカードの作成等を行ない、来年一月には、読書感想文集第六号の発行を予定しております。また、昨年より、ボランティア活動として、村の「移動図書」のお手伝いを始めました。巡回日には、駐車場ごとに会員を割り当て、図書の整理、村民への呼びかけ等、積極的に活動しております。クラブ員は、三十代後半から四十代で、今年高校三年生になつた子供の母親同志という間柄ですから、共通の話題を持っていて、話が進展していくのがこの会の利点かとも思います。お互いの健康に留意しつつ、一生涯の良きお付き合いをと願つております。



田中利子



愛読をいただいた「埼玉の文学」も筆者交替でこのような形で、今後も続けたいと思います。どうぞご意見をお寄せ下さい。

東西南北のお知らせ頁では、八月末日締切りの、今年度読書感想文の募集案内をいたしました。どうぞふるってご応募下さい。

本の広場では、珍しい外国の絵本について紹介いたしました。何とも歴史の長い童話の国の立派な本ばかりですので、切にご利用をお待ちしております。

The tale of Peter rabbit. (ピーターラビットのおはなし)

Beatrix Potter 作

Frederick Warne 社 イギリス [刊年不明] (浦・川・久)

Where the wild things are. (かいじゅうたちのいるところ)

Maurice Sendak 作

Bodley Head 社 イギリス 1975. (浦・川・久)

Der Mondmann. (つきおとこ)

Tomi Ungerer 作

Diogenes 社 スイス C1966. (浦・川)

Rapunzel. (ラプンツェル)

Bernadette Watts 絵 Brothers Grimm 作

Nord-sud 社 スイス 1977. (浦・川)

Time of wonder. (すばらしいとき)

Robert McClosky 作

Viking Press 社 アメリカ合衆国 C1957. (浦・川)

Curious George. (おさるのジョージ)

H. A. Rey 作

Houghton Mifflin 社 アメリカ合衆国 C1969. (浦・川)

Krokodil Krokodil. (わにくん)

Binette Schroeder 絵 Peter Nickl 作

Nord-Sud 社 スイス C1975. (浦・川)

Dawn. (よあけ)

Uri Shulevitz 作 Farrar, Straus and Giroux.

社 アメリカ合衆国 1978. (浦・川)

新年度第一号にはじめてカラー印刷を試みました。いかがでしょうか。この表紙写真は、妻沼町教育委員会、高田武男氏に御提供いただいたものです。

また水なし県の住民とて、水を求めて利根河畔にある「花埋み」の里を探訪したその印象をお送りします。

また生涯学習の盛んなグループの語りを二篇、頁の中に散らしました。